



今年の秋は上着いらずというか、11月になっても半袖で過ごせるような日があったと思ったら、急に寒くて厚着をする日が出てきたりと、わけのわからない気候でした。師走になっても暖かい日が多いので、そのうち冬がなくなってしまうのではと心配になります。気温が高い季節しか生きられない虫たちは、そのほうが嬉しいかもしれませんけどね。

夏から秋にかけてよく見かける生き物の一つにトンボがいます。ここ数年小雀公園では、Vol.21でも紹介したように、トンボがもっと見られるように湿地の管理に力を入れています。トンボは水辺があれば寄ってくると思いますが、種類によって水深や日照、草の茂り具合など好みが多様なので、呼び寄せたいトンボの種類によって作る環境も違ってきます。小雀公園には数は少ないけれど、貴重な種類のトンボも生息しているようです。これからも今よりもっとたくさんの種類のトンボが見られるように、少しずつ湿地の改良を重ねていきたいと思っています。

先日も横浜市の職員と公園職員とが力を合わせ、陸地化が進む花の湿地園に水辺が復元するよう、掘り上げ作業を行いました。作業前は靴でも歩けるような状態だった場所が、作業後には水面が現れました。作業直後の環境はただ深い水たまりができたような状態で、まだ生き物にとって良い環境とは言えません。水深が深いと外来種のアメリカザリガニが増えてしまい、ほかの生きものや植物を食いつくして荒れた環境になってしまい、ザリガニ好きの子供たちには楽しい環境かもしれませんが、色々な種類の動植物が楽しめる豊かな水辺環境にはなりません。これから少しずつ数年かけて、環境を整えていきたいと思っています。目標はイトトンボのような繊細な水辺の生きものが生息できる環境作りです。来年以降も手を加えていく予定なので、どうなるか経過観察を楽しんでくださいね！



↑ 陸地が水辺になりました！



↑ 草木より細いイトトンボ

